

令和6年度事務事業評価シート (評価対象年度 令和5年度)

●基本情報

事業名（取組名）		シティプロモーション事業（利根町元気プロジェクト！）			評価番号	5-3-10-1・2
担当課		まち未来創造課	係	シティプロモーション係	□ 予算なし	
基本計画	基本方針	【５】みんなが主役でともに進むまちづくり			会計	【01】一般会計
	基本施策	【３】町民参加を進める広報・広聴の推進			款	【0102】総務費
	施策	【１０】まちの魅力を高めるシティプロモーションの充実			項	【010201】総務管理費
	主な取組	①利根町元気プロジェクト！の推進			目	【01020106】企画費
		②町公式SNSなどの活用によるまちの魅力発信			事業	シティプロモーション事業

●計画 ~PLAN~

根拠法令等	● なし ○ あり	名称	
新規・継続	○ 新規 ● 継続	事業開始年度	29 年度 ☐ 事業開始年度不明
事業期間	○ 期間限定あり (事業終了年度: 令和 年度) ● 単年度繰り返し ○ 単年度のみ		
実施手法 (すべてチェック)	☒ 町が直接実施(直営) ☐ 委託 [☐ 全部委託 ☐ 一部委託] ☐ 補助金等 ☐ 町民協働 ☐ 指定管理 ☐ 事務局 ☐ その他 ()		
実施形態	☒ 町単独 ☐ 国・県補助事業 ☐ 国・県補助事業+町事業(上乗せ) ☐ その他 ()		
事業概要	子どもたちが楽しく参加できるイベントやワークショップ等を開催し、参加を促進することで、幼い頃から町への興味関心、愛着心を醸成する。また、SNSを活用し町の魅力を視覚的に発信することで、幅広い世代に町の魅力を再認識してもらい、いつまでも住み続けたいと思える町を目指す。		

●実施 ~DO~

事業業績	とね元気塾ワークショップ「利根の桜の花みこし」では、利根小児童が花みこし作りに参加し、母校への想いを書いたメッセージカードをパネルに貼り付けて展示したほか、利根緑地運動公園で愛犬家をターゲットとしたドッグイベント「わんてらすdog & outdoor in 利根町」を開催し、県内外から多くの来場者を呼び込むことで町の認知度向上を図った。				
支出	主な歳出の節		令和３年度（実績）	令和４年度（実績）	令和５年度（実績）
	内訳	7 報償費	10,000 円	200,000 円	50,000 円
		10 需用費	106,964 円	181,726 円	130,792 円
		11 役務費	770,000 円	792,000 円	0 円
		17 備品購入費	22,880 円	0 円	0 円
		18 負担金、補助及び交付金	35,200 円	0 円	0 円
		その他	円	円	952,600 円
	事業費 計		945,044 円	1,173,726 円	1,133,392 円
財源	主な歳入の科目		令和３年度（実績）	令和４年度（実績）	令和５年度（実績）
	内訳	国支出金	454,922 円	585,913 円	558,721 円
		県支出金	円	円	円
		受益者負担金	円	円	円
		地方債	円	円	円
		その他	円	円	円
		一般財源	490,122 円	587,813 円	574,671 円
	事業費 計		945,044 円	1,173,726 円	1,133,392 円

●評価 ～CHECK～

妥当性	①政策目的との整合性 事業目的が上位政策（主な取組）の達成に貢献しているか。	理由	☒ 貢献している ☐ 見直す余地がある 幅広い世代が参加できるイベントやワークショップを開催し、その様子を効果的に町内外へ発信することで、町に関心を持つ機会を創出している。
	②町関与の妥当性 町が事業主体として事業を行うことが妥当か。	理由	☒ 妥当である ☐ 見直す余地がある イベントだけに限らず、シビックプライドを醸成し、町民の元気な姿を全国へ発信することで、町の魅力度を向上させることができるため、町が主体で事業を行うことは妥当である。
有効性	③成果の向上余地 事業内容を工夫することにより成果を向上させることができるか。	理由	☐ 余地がない ☒ 見直す余地がある 日々変化する流行りや時代に対応するため、日頃から情報収集につとめ、効果的な情報発信ができるよう工夫が必要である。
	④廃止・休止の可能性 事業の内容や成果から廃止・休止できるか。	理由	☐ 可能性がある ☒ 可能性がない シティプロモーションは、時代に合わせつつ他の自治体との差別化も図りながら、継続、発展させていくことで効果が現れるため、廃止や休止はできない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合・連携を図ることにより成果が期待できるか。	理由	☐ 可能性がある ☐ 可能性がない ☒ 類似事業はない シティプロモーション活動は、町内外へ広く効果的に町の情報を発信しており独自性がある。
効率性	⑥事業費の削減余地 成果を下げずにコスト削減できるか。	理由	☒ 余地がない ☐ 余地がある SNSによる情報発信は最小限のコストで実施しているが、イベントやワークショップなど、時代に合わせて内容により事業費も変動することため、計画した内容を適正な事業費で取り組む。
公平性	⑦受益者負担の適正化 事業内容から受益者の負担割合は適正か。	理由	☐ 適正である ☒ 見直す余地がある ☐ 受益者負担を求める事業ではない 取り組む事業内容により、その都度、事業費も変動することから、計画した内容に適正な事業費で実施する。

●改善 ～ACTION～

今後の方向性	継続（ ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☒ 改善 ☐ 拡大 ☐ 休止 ☐ 廃止（終了） ☐ 統廃合 ☐ 連携
	【理由】 今後も若い世代を中心とした参加型のイベントやワークショップを開催するなど、シビックプライドの情勢を図るとともに、社会環境や時代に即した広告戦略を立て、積極的かつ効果的に情報発信することで魅力度や認知度の向上を図っていく必要がある。